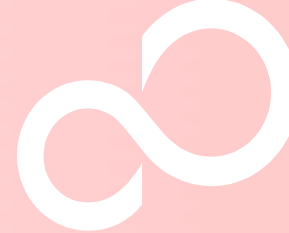




ソフトウェアの技術開発と 人材育成の強化について

2003年2月27日

富士通株式会社
前山 淳次



1. ソフトウェアを取り巻く環境の変化

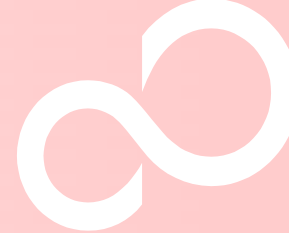
(1) ソフトウェアの比重の高まり

- ・製品のソフト化による開発規模の増大
(例: 携帯電話FOMAは約200万ステップ)
- ・ソフトウェア技術の横方向への広がり
(製品横断的なソフト-コンポーネント-の増加)

⇒ プロジェクト管理と開発技法がますます重要性に

(2) アプリケーション領域の拡大

- ・ハードの性能を最大限に活かした高度なアプリケーション開発が必要
- ・アプリの品揃えがITの利用拡大の鍵



(3) オープンソースの台頭

- ・オープン性 (誰でも障害究明、修正、性能強化が可能)
- ・技術的優位性 (技術改良の自由度が高い)
- ・TCO削減 (初期投資、管理コスト等が低い)

(4) 情報セキュリティの強化の必要性

- ・社会的信用の失墜、経済的損失、顧客満足度の低下を引き起こすリスクが増大
- ・セキュリティ技術開発が急務
 - 日本自身の情報安全管理
 - IT利用の拡大にとって必須条件



2. ソフトウェア技術力の強化に向けて

(1)戦略的に重要な分野にリソースを集中

[戦略的に重要と考える分野]

- ・情報セキュリティ(暗号、認証、DoS攻撃対応等)
- ・オープンソース(Linux等)
- ・高信頼性・高生産性ソフト開発技法

(2)ソフトの研究開発への投資拡大

- ・大規模国家プロジェクトの推進
- ・企業のソフトウェア開発投資に対する支援

(3)ソフト技術者の育成の強化

- ・技術力向上のキーファクター
- ・産学官の連携が必須

3. ソフトウェア技術者育成のポイント



(1) スーパー技術者の育成を強化

- ・技術と戦略のダブルメジャー
- ・高度なアプリ(業務知識)と基本ソフトの素養
- ・ハードを含めたシステム全体を見渡せるアーキテクト

(2) 育成の「場」を設け、具体的目標を掲げる

- ・重点技術分野の研究開発プロジェクトを立ち上げる
- ・ターゲットを明確化する (例: 情報家電用オープンOS等)

(3) 人材の流動化を推進

(4) 時間軸を設け、産学官で役割を分担

4. まとめ

(1) ソフトウェアの戦略ビジョンの明確化と実行



- ・政府主導で産学が協力し将来ビジョンを明確化
- ・産学で技術開発を推進し、産業界が成果を製品化

(2) 重要ソフト技術開発プロジェクトの設置

- ・戦略性と高度な技術要素を持たせたプロジェクト
- ・産学官の人材を結集して開発
- ・OJTを通じた実践的な問題解決の機会